第 436 回「言葉の院外処方箋」

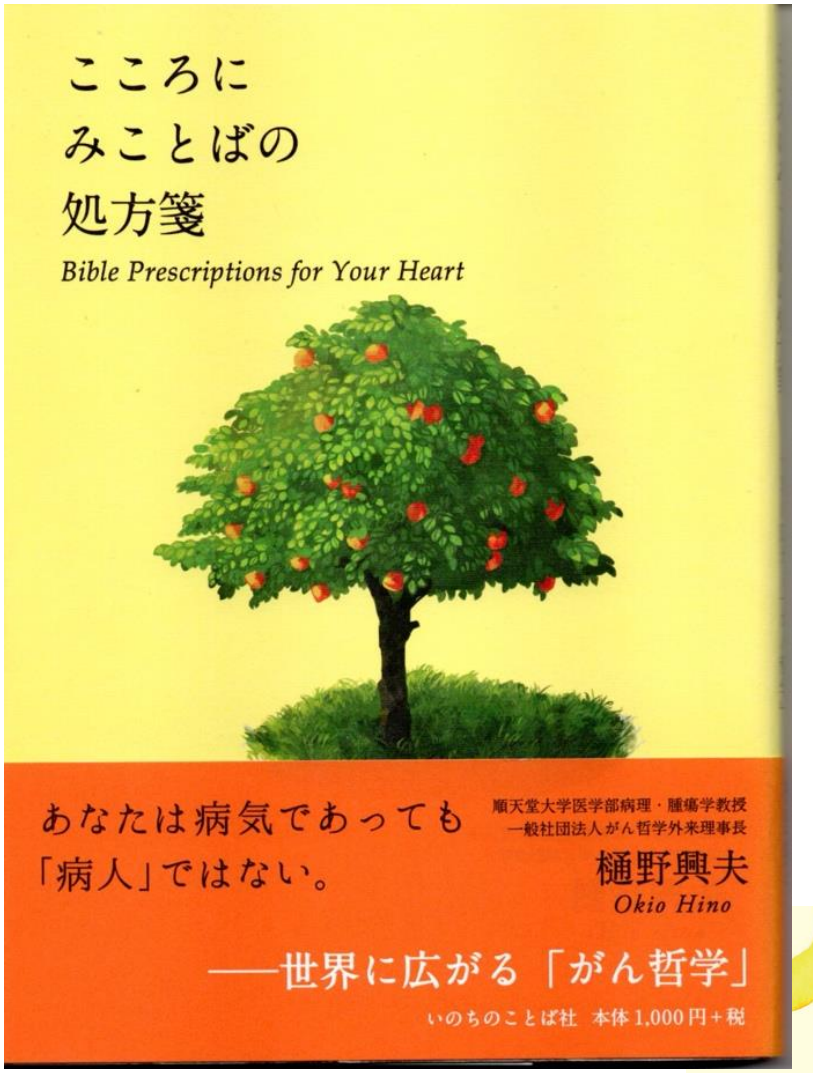
新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

『マクロとミクロの両方の視点を持つ』～『人生に潔く専念する』～

2026 年 10 月 22 日『新渡戸稲造記念センター in 新渡戸記念中野総合病院』に赴いた。 昼食後、『紅葉山公園』を散策した。『もみじ山通り』から『大久保通り』を歩いて『いのちのことば社』と『へるす出版社』を通過した。

『こころに みことばの 処方箋』(Bible Prescriptions for Your Heart)(2015 年 9 月 20 日 いのちのことば社発行)(添付)の『おわりに』の【 ―― アメリカ在住の娘の Essays(エッセイ)『The Restitution of Pathology ～ The Real Professional ～(病理学の復権～本物のプロフェッショナル))の掲載誌が送られてきました。『A true philosopher adheres to knowledge, truth, the nature and meaning of life by encompa-ssing both a macro and micro perspective.-as a true philosopher, much like my father (真の哲学者は、マクロとミクロの両方の視点をもち、知識や真実、自然や人生の意味を問う。 私の父は、そのような真の哲学者である。)』と、お褒めの文章で終わっていました。―― 病理学者とは『森を見て木の皮まで』診る者であり、マクロからミクロまでの手順を踏んだ『丁寧な大局観』を獲得する『厳粛な訓練』の実践者でもあろうと思います。『自分の人生に潔く専念する』とは何かを、深く静思する日々です。 がんになっても、がんと共存して、天寿をまっとうすることはできます。 大切なのは、最後までどう生きるかです。 何を残すかです。 夕暮れ時に、光がある。 終わりに輝きがある。 人生不思議ですね。】 が鮮明に思い出された。

『がん細胞から学んだ生き方「ほっとけ 気にするな」の哲学』(2021 年 11 月 30 日 へるす出版発行)(添付)の『はじめに』には【『筆者が、順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授を定年退職後、新渡戸稲造記念センター長を拝命した新渡戸記念中野総合病院の近くにある『へるす出版』の事務局の斉藤浩司氏から 2021 年 3 月 30 日、『埼玉医科大学総合医療センターの石田秀行 先生からご紹介をいただき、メールをさせていただきました。 樋野先生が 新渡戸記念中野総合病院に ご出勤され、ご都合がいいときに、一度、ご挨拶(出版企画に関してのご相談)にうかがえればと思っておりますが、いかがでございますでしょうか。 不躾ではございますが、ご検討いただけますと幸いに存じます。』との心温まるメールが届いた。 そして、この度、『がん細胞から学んだ生き方 ～「ほっとけ 気にするな」の がん哲学』出版の実現の運びとなった。『ほっとけ 気にするな』は、筆者が作詞した曲のタイトルでもある。 本当に、人生の不思議な流れを 痛感する日々である。―― 】と記述している。 不思議な時の流れを痛感する貴重な 1 日となった。


こころに
みことばの
処方箋
Bible Prescriptions for Your Heart
あなたは病気であっても
「病人」ではない。
順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授
一般社団法人がん哲学外来理事長
樋野興夫
Okio Hino
——世界に広がる「がん哲学」
いのちのことば社　本体1,000円＋税


がん細胞
から学んだ
生き方
「ほっとけ 気にするな」の
がん哲学
樋野興夫
順天堂大学名誉教授
新渡戸稲造記念センター長
恵泉女学園理事長
がん細胞で起こることは、
人間社会でも起こる
病理医として顕微鏡でがん細胞を覗いてきた筆者が、ミクロの世界の生命現象と人間社会というマクロの世界を考える新しい領域として「がん哲学」を提唱、医療と患者の隙間を埋めるべく「がん哲学外来」を開設した。メディカルカフェも全国に展開され、患者と家族の交流の場となっている。
へるす出版